

同 志 社 大 学

2013 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014 年 2 月 19 日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	准教授	興津真理子
研 究 題 目	家族造形法を用いた事例検討の効果に関する実証的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では家族療法の一技法である「家族造形法」を、事例検討に用いることによる効果について検討をおこなった。</p> <p>これまでに引き続き、今年度も研修会をキャンパスプラザにて継続して行い（1回／月，8回／年），その中で様々な事例について検討を行った。昨年度に行ったこの研修会をフィールドとした研究は2013年8月の家族心理学会で報告をおこなった。</p> <p>また，大学生を対象として，事例を「読む」場合と，家族造形を行う場合とで，事例の読み取りにどのような違いがあるのかについては，昨年度の予備実験を発展させた検討をおこなった。その結果，家族造形法の導入により，事例の家族成員への共感的理解が促進されることが示唆された。この結果については2014年7月の家族心理学会で報告を行う予定である。</p>	